

2011年

11月

12月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|---------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 1 📖 | 2 📖 | 3 休 | 4 📖 | 5 | | | | | 1 😊📖 | 2 📖 | 3 |
| 6 | 7 | 8 📖 | 9 📖 | 10 😊📖 | 11 📖 | 12 📖 | 4 | 5 | 6 📖 | 7 📖 | 8 📖 | 9 📖 | 10 |
| 13 | 14 | 15 📖 | 16 📖 | 17 📖 | 18 📖 | 19 | 11 | 12 | 13 📖 | 14 📖 | 15 📖 | 16 📖 | 17 |
| 20 | 21 | 22 📖 | 23 📖 | 24 📖 | 25 📖 | 26 | 18 | 19 📖 | 20 📖 | 21 📖 | 22 休 | 23 休 | 24 休 |
| 27 | 28 | 29 📖 | 30 📖 | | | | 25 休 | 26 休 | 27 休 | 28 休 | 29 休 | 30 休 | 31 休 |



教室のある日



ありの読書会……………10:00~12:30 参加費：300円

「どの子もよく生きようとしている」という人間観で教育から見直しています。



縁側の日……………10:30~12:00 参加費：300円

毎月第一木曜日にしています。認知症に関心のある方、どなたでもどうぞ！

- ★11月の縁側の日は、第二木曜日10日(木)にします。
- ★12月22日(木)~1月4日(水)は、教室はお休みです。
- ★12月19日は月曜日ですが、夜7時まで教室をします。
- ★12月のありの読書会は、未定です。

★ 教室のFAXの番号が変わっています。(電話番号はそのままで)
222-9077 ⇒ 226-3303

〒514-0821 三重県津市垂水 1200-7

☆豊吉晴子☆S.L.S.すぎな☆

Tel: 059-222-9077

Fax: 059-226-3303

E-mail: haru_sugina1044@wave.plala.or.jpすぎなのHP: http://blog.goo.ne.jp/s_l_s_sugina/すぎなの風(フウ): http://blog.goo.ne.jp/s_l_s_sugina/

「自分」を大事にしてこそ

9月には尿路結石のことで、皆さんにいろいろご心配をおかけいたしました。しかし、そのお陰で母を入院させてもらえることになり、母のサポート形態、私の人生を見直すことができました。兄とゆっくり話すこともでき、これまでの兄一家の言動の謎も解けました。父が兄に頭を下げて、この家を私に残してくれたことなど、初めて聞くこともたくさんありました。さらに、私のわだかまりの原因が、私の「離婚に対する罪悪感」であることに初めて思い当たりました。

「母にも子どもにもこの家で私にできることはやりきった。あんたはよく頑張った。なのに、その自分をずっと責めていたなんて…ごめんな。ゆるしてな。だけど、そんなあんたが、私は愛しいよ。ありがとうな」。

9月以降いろいろな想いでたくさん泣き昇華してきたのですが、この時、まだ溢れていた涙が、ピタッと止まったのです。最後の涙の理由は、他の誰でもない「私」だったのですね。

お陰さまで、11月から母の拠点は兄の家に移ります。思いがけない最良の方法に落ち着くことになりました。

「お母さん、今度はおにいちゃんと一緒に暮らすのよ。幸せやなあ。子育て大成功や。人生大成就や。頑張って生きてきて、よかったなあ」。

すると、もう話すことはないと思っていた母が、はっきり言葉を発したのです。
“…うれしい…”

どんなことになろうと、人は最後まで人なんだ。

自分を大事にしてこそ、人を大事にできるんだ。

母は、自分の身をもって、なんとたくさんのことを教えてくれるのでしょう。

認知症の母と暮らした7年余り、教室の生徒さん、親御さんのご理解があって、ここまでやって来ることができました。皆さん、本当にありがとうございました。



ほっこり、やさしい時間と空間

「T君（小5）は、毎週毎週、成長しているよ。」

私がそう言うと、T君のお母さんはびっくりしてみえます。息子が他の子の邪魔をしているのではないかとお母さんは気が気でなかったのだそうです。学校などでトラブルが多かったので、心配するのも無理はないでしょう。

入会（今年2月）当初、T君（小5）は他の人がいる空間では集中しにくかったので、生徒さんがいない時間帯に勉強していました。9月には、他の子も来る時間帯に来るようになりました。「プリント、答え合わせ、記録表を書く」という作業もスムーズになりました。お母さんを待つ時間ができ、自分の折り紙の本を持ってきて、「折り紙」にはまっています。

ある日、T君が折り紙をしていると、初対面のYちゃん（5歳）がやってきました。

Yちゃんは、それほど折り紙が好きではないのでしょう。T君が楽しそうに折り紙の話をしていても、Yちゃんは、折り紙をする気配もなければ、プリントを始める気配もありません。

豊吉：（時計を見て）針がどこに来たら、始めようか？

Yちゃん：9のところに来たら、する。

豊吉：了解。

ちょうど針が9のところ（45分）になりました。

Yちゃんを呼びに行くと、バッタの上にバッタ、その上にまたバッタ・・・と5段のおんぶバッタが出来上がっているではありませんか。いつのまにか、YちゃんとT君の二人で作りあげていたのです。

Yちゃんは、約束どおりプリントを始めました。

その間、T君は色紙に何か字を書いてYちゃんの背中に張っていたずらをしに来ます。

豊吉：Yちゃんは今、一生懸命やっているから、今はせんといてな。

T君：わかったよ。

ところが、またT君は、色紙に何やら書いて、Yちゃんの背中に張ろうとするのです。

「さあ、どう言おうか」と私がTくんに向き直ると、T君の表情が瞬時に淋しげに変わりました。

ふと見ると、T君が持っている紙には、「バイバイ」と書いてあります。

「はっていいよ。そつとな」と私が小さい声で言うと、嬉しそうにはって、帰るしたくにかかりました。

Yちゃんが、それはずして見えています。

豊吉：Tくん、Yちゃんのじゃまをせんように、かみにかいて、あいさつしにきてくれたんやな。

Yちゃん：（だまって、ニッコリうなづく）

玄関を出て行こうとするT君をYちゃんがニッコリ見ました。T君は振り返り、その視線を確かに受け止めて帰っていきました。

こういう場面に出くわすと、まるで私が優しくしてもらったような気分になります。

「人には優しくね。こうしてあげましょうね」なんて大人がうるさく言わなくても、子どもの方が優しい関係を作るのは上手いよなー、と思うことがよくあります。医者から「コミュニケーションの苦手な子」と太鼓判を押された子にもよくあることです。

ただ、子どもによっては表現方法が、他人には理解しにくい場合があるのですよね。私にはそれを見落とさない自信はありませんが、「少しでも気づくことのできる大人になりたい」と思っています。

「声を聞く」とは、そういうことも含まれるのだ、と実感するようになりました。

そうそう、ピアノの上にバッタを置いておいたら、他の子もいろいろ折っては置いていくので、ピアノの上がいっぱいになってきました。しばらくは、「開かずのピアノ」ということにしましょうか…

ほっこり優しい時間と空間。

すぎなでも、皆さんの回りでも

ふえていくといいですね。